

元気 パワー

GP農法だより



H24年6月29日、埼玉県鳩山町で報告会を開催
高橋、佐藤が報告した。 8人参加。

崩壊した農地を健康な農地に甦らせる、「GP農法」

(食べて元気になる農作物を生産する農法)

農地になる前はそこは原野森林（多くは広葉樹林や竹林）だったところを伐採して農耕地にした。自然林が繁茂する土壌を作ったのは、そこに居住していた土着微生物である。数千年～数億年もの期間をかけて！人間が農業用にしてからは、土着微生物用の「エサ」を与えないで“焼畑”農業、現代では化学肥料と農薬漬農法となった。

土着微生物にとっては、最悪の環境であった。こんなところで生産された農産物は、栄養不足となり、それを食べる人間も家畜も、病弱となった。

そこで心ある農家は、微生物資材等で有機農業に挑戦しているが、病害・虫害にはほとんど農薬との組み合わせとなっている。

GP農法の資材は、「霊芝」(サルノコシカケ：東南アジア産)を原料とした土壌改良資材と、雑草を発酵させて作ったエキス等。

「霊芝」を圃場の40cm位の深さに埋設すると、半径5m

15m位に住む土壌微生物を元気にする強烈なエネルギーを発生する。

この際甦った土壌微生物のエサを敷きこんでおくこと。手取り早いのはモミガラぼかしを10アールに300～400kgを散布(軽く耕起)しておく事。モミガラのなかにケイ素分やたくさんのミネラルを含んでいて、作物の体を丈夫にする成分である。

また私どもが推薦するモミガラぼかしはセット後30～40日で完成する。あるいは広葉樹や、竹をすりつぶした(ビーバーミルという装置がある)ものを原料にしても良い。

発行 農民連埼玉葛支部 NO9

事務局長 高橋利男 TEL 090-6933-1755

〒344-0011 埼玉県春日部市藤塚 402-18

土のパートナー 佐藤 隆 TEL 090-4672-1285

【GP農法、資材を投入したのに、病気や害虫が発生したのはなぜか】

前段で説明した土着微生物のエサが、十分与えられていなかった。また栽培途中に

「GP農法」資材を投入した場合には、すでに病害虫が発生している場合が多い。

種子や苗には病害虫対策として農薬がまぶしてある。これを消去するには「GP元気水」を種子あるいは苗に噴霧することで農薬の影響を消すことができる。ここで病害虫が発生したとして、農薬を散布すると、土着微生物は2～3ヶ月は動きが悪くなってしまう。

始めから「GP農法」資材を活用する場合でも、モミガラぼかし等を投入し、且つ微生物簡易調査(方法は図)して、土の改良を確認してから(1～2ヶ月後)本番に取りかかった方が安心である。

疑問がある場合にはできるだけ写メールか写真で耕作者の住所氏名とその農地の所・番地を記入して資材を導入したところ(人)へ届けて下さい。

1～2日で原因と対応を連絡します

図：微生物簡易(酵素)テストの方法

準備した容器に、水を7～8分目入れる。対象区と処理区の土を20～30g入れ、箸等でよくかきまぜる。1～2分位。水は水道水で良い。

何が分かるのか。

濃い方が微生物が多い。農薬や化成肥料を施して2～3カ月では、「GP農法」でも微生物は少なくなる傾向がある。未熟堆肥を施した場合も、1カ月毎にテストして、写真をとっておくといろいろな事が見えてくる。

*準備するもの

容器：2個以上(300～500ccの透明なガラスのコップ又はペットボトル)

土：対象区・処理区と最低2種

水：水道水でよい

攪拌用具：箸等でもよい。



作物グループ毎の対応

ほうれん草、ちぢみほうれん草、小松菜、キャベツ、白菜、ちんげん菜、レタス

いずれも種子消毒をされているので必ず GP 元気水で、解毒すること。全般的には生育が早くなる。従って収穫のタイミングが早まるので、そのため、段蒔をして、収穫の調整が必要。遅れるとトウ立ちしてしまう。トウが立ってもおいしいが売り物にならない。ちぢみほうれん草は株が大きく、重くなるので、収穫量は大巾に増える。2年目以後はヒヨドリなどの鳥害が大巾に減る。F、F2が多いので種子屋やメーカーに相談すること。夏至を境に前に良くなるもの、後の方が良くなるもの等も。根コブ病が出るからと土壤消毒していたら、「GP 農法」の効果は期待できない。

大根、人参、ごぼう、いも類

いずれも、連作障害が出やすいが、「GP 農法」なら連作障害はなくなる。三寸人参が 4~5 寸以上になるのを始め、根の生長点が 30~50%も伸びる。深い所まで伸びても「地下水」の影響が出ないようにしておくこと。これらの作物の養分は、ほとんど表面から 10cm 以内で吸収。従ってボカシも下層に入れる必要はない。それより下の根からは主として水分だけを吸収する。早魃対策をしておかないと不良品になる。(スジ入りになったりする。) 地下水位が高いところ、雨水が溜まりやすい畑は 50cm 以上の高畝にするか、畑の回りに 50cm 以上の溝を掘り、雨水や水田等からの浸透水は、サモースタート付きのポンプ等で排水すること。

きゅうり、トマト、なす、ピーマン、いちご等

これらナリ物は「GP 農法」の効果を最高に発揮する作物である。1.5~3.0 枚目の本葉が出ると栄養生長と生殖生長が始まり“永久”に生長を続ける。つくば市で開催された“つくば博”では4年5年も生育し続けたトマトが展示されていた。「GP 農法」でナスやきゅうりを慣行より 70~100%も多く、ナスは収穫後から2ヶ月も腐敗もしない。いちごは6ヶ月以上も続けて収穫も可能。しかも、ほとんどが LL 中心。たくさん収穫するには追肥のタイミングが大事。花芽が順調に出ているならこれまでの収穫量になる頃には2回目

の追肥が必要。モミガラぼかしを 10 アール毎に 100kg 位ずつ散布すること。いずれの作物にも追肥が必要「化成肥料」の液肥は禁物。

アスパラ、ニラ、ウド、フキ等

これらの作物は、根株を大きくすることが基本。蜜植すると、大きな根株はできない。

3~5年も活動するのですから、アスパラなんかは1年目に 3kg 位の株にすると良い。これだと3年続けて大人の親指のようなアスパラが出て、3~4回も取れる。根株が 1kg 以下だと、太いのは1回だけあとは急に細くなる。

ニラは3年毎に株分けして(全体の 1/3 を)毎年肉厚のニラを収穫が可能。途中から「GP 農法」にしても大きな期待はできないが、株分けのタイミングで条件の良い畑にしておくこと。

大豆・小豆・ソバ・ソラマメ…等

大豆類には蛋白質が多いので、それを求めてたくさん害虫が寄ってくるが、

「GP 農法」では1~2年後からはこれらの害虫は寄り付かなくなる。ソラマメにアブラムシが GP 農法では殆ど来なくなったとの報告もある。

遺伝子組み換え、農薬漬けと縁を切った安全な豆腐や納豆を食べられるようにしよう。

リンゴ、梨、ブドウ、柿、栗

すべての果物は今年収穫するものは、花芽は昨年からできている。従って、今年「GP 農法」始めても大きな期待はできない。土が改良されているから初年度からも若干は良くなる。GP 農法では1~2年後には農薬散布は必要なくなる。発酵する果物ができる隔年欠果もしたいになくなる。



米・麦・とうもろこし…等

米や麦、トウモロコシは、今は、品種を守るというふれこみで、農薬まみれの種子を無理やり買わされているので、ハイパワー元気水で解毒すること。特に寒冷地ほど増収が期待できる。

市販されている米には「中米」といって未熟な米も混入している（合法的に）ので、どうしても発酵テストでは5～7日で腐敗する。さらに外食では、堂々と外米も混入されている。これにはポストハーベストとして、舟底でネズミや虫よけのための農薬が入っている。こんな危険な米（麦も基本は同じ）を食べていては、健康な体にはなれません。

以上ほんのさわりだけをふれただけだが、「GP 農法」は、日本の農業と消費者を救う救世主となるでしょう。



《簡易微生物調査》

セット7月3日 写真は5日後に撮影。

上から、【GP農法+モミガラぼかし】、
中【モミガラぼかしのみ】 下【化成肥料のみ】
(春日部小平 吉田嘉広さんの圃場)

灵芝は2月に埋設。モミガラぼかし、化成肥料は4月中旬散布。田植えは5月上旬。
濁って見えるのは主として土着微生物が作り出した酵素。化成肥料を施した水田の土の上澄みからは、この酵素を全く見ることはできません。

=トピックス=

- ★市販されている各種の種子や苗には、初期生育の病・虫対策に農薬がコーティングしてある。このことが後に病・虫を呼びこむのだ。
- ★「GP農法」では、病・虫対策として、GP元気水や、雑草エキスで対応する。
- ★「GP農法」は、土着微生物の繁殖が増加するので、地温が上がる。2～3℃も高くなるので、海拔500m以上のところや北海道等のような寒いところでも、増収が期待できる。

【下記の写真は、7月12日時点の生育状況】

1カ月後、2カ月後の生育状況を追跡します。今後大きな違いが逆転して出てきます。どうぞ楽しみにしてください。



GP 農法+モミガラぼかし区



モミガラぼかし区



化成肥料区

「GP農法」資材のご相談先は

農民連埼葛支部 高橋利男 TEL 090-6933-1755 FAX 048-735-6162 佐藤 陸 TEL 090-4672-1285

【使用資材】 *灵芝 (好気性微生物・嫌気性微生物用、2ヶで1セット。3～5年で追加)

*ハイパワー元気水 Fタイプ (種子処理・病・虫対策)

*ハイパワー雑草エキス (種子処理・病・虫対策)

*モミガラぼかし用資材一式